■ 木の学校づくり

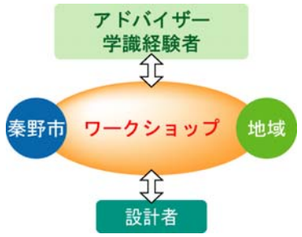
学校は整備が求められる公共施設の中で、取り組む優先順位の高い施設と考えます。義務教育施設は「ハコにこだわる公共施設」であるべきではないでしょうか。

今後、学校余剰地の有効活用（売却やＰＰＰ事業等）並びに補助金の積極的な導入等事業費の低減を最大限検討した上で、丹沢を背に丹沢で育った木を使い、地域文化のシンボルとして長く愛される学校づくりを提案します。

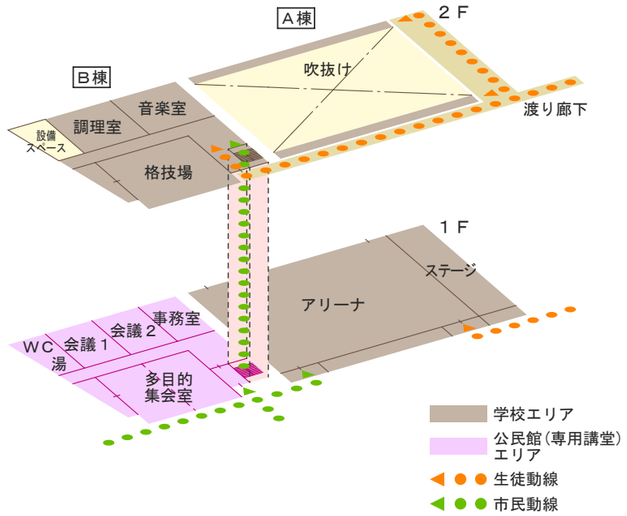
■ 土地利用計画の提案

■ 学校増改築のワークショップ提案

シンボル事業の検討から設計をまとめるまで、義務教育施設の計画を多く手がけている学識経験者にアドバイザーとして参加してもらい、計画段階からワークショップを開催し、学校と地域が一体となって学校建設を推進するためのコミュニケーションづくりを提案します。



■ フロアー構成ダイアグラム



公民館集会室イメージ

体育館イメージ

■ 公民館跡地利用の提案

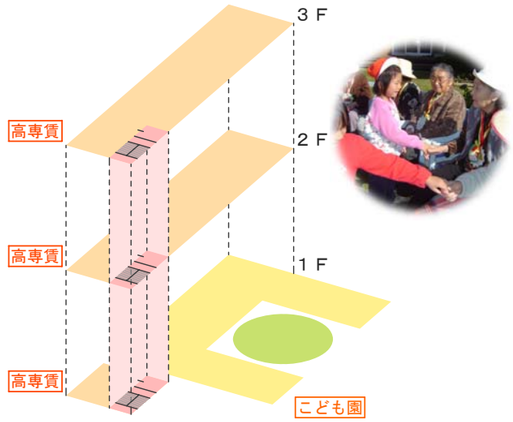
提案１（余剰地売却案）

公民館及びプール・格技場跡地約2,700㎡を売却し、事業費に補填する。

提案２（余剰地ＰＰＰ事業案）

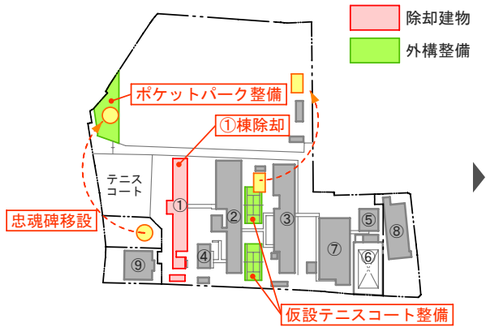
駅に近く、買い物や日常生活を営む上で非常に便利な条件が整った周辺環境を考えると、ここは元気なお年寄りが安心して生活でき、お年寄りによって新しいコミュニティが生まれる、そんな街おこしを可能とする条件が揃った場所と思われることから、関連施設（診療所や訪問介護、配食サービス、有料老人ホーム等）やこども園を併設した高齢者専用賃貸住宅（高専賃）をＰＰＰ事業として取り組むことを提案します（約5,400㎡まで建設可）。

現在、国では「高齢者等居住安定化推進事業」で高専賃建設に補助を行っています。今後高専賃による高齢者の住宅供給拡大によって、４２万人の待機者がいる特養の申し込み圧力の低下、ひいては社会的コストの低減につながることも想定しています。



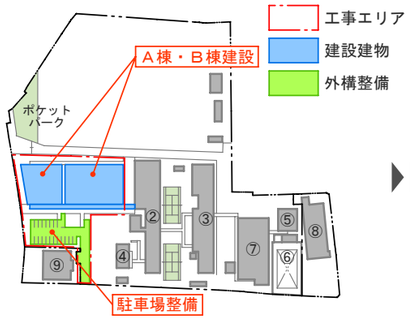
■ 建替え計画の提案

Ⅰ期（４ヶ月）



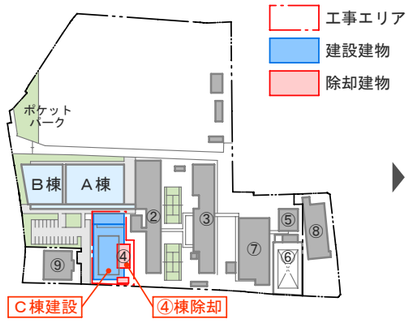
・①棟（既存校舎）除却
・ポケットパーク整備、忠魂碑移設
・仮設テニスコート整備

Ⅱ期（15ヶ月）



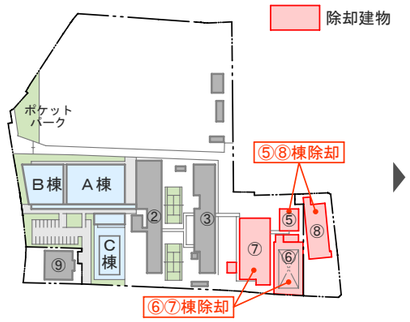
・Ａ棟（体育館棟）、Ｂ棟（公民館＋特別教室棟）建設
・駐車場整備

Ⅲ期（８ヶ月）



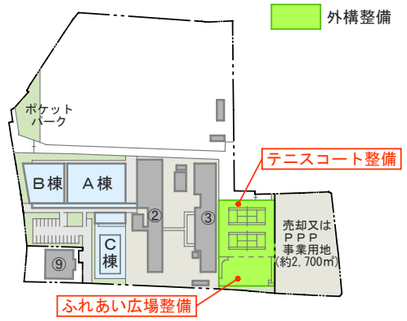
・④棟（既存プレハブ調理実習室）除却
・Ｃ棟（プール）建設

Ⅳ期（４ヶ月）



・⑤～⑧棟（既存格技場、プール、体育館、公民館）除却

Ⅴ期（２ヶ月）



・テニスコート、ふれあい広場整備

秦野市公共施設再配置計画　シンボル事業検討素材　㈱小林建築事務所